

1 A たり

NO 2

こんなに返信の紙が届くなんてびっくりしました。これまでも、いくつかの学校でおたよりを出してきましたが、こんなに返信が多い学校は初めてです。それにもまして、A組の子ども達がしっかり、お家の人におたよりを届けてくれていることにも、嬉しさが込み上げます。もっともっと、しっかり考えたたよりを発行していこうと責任みたいなものが生まれてきました。『返信欄を切り取ると、裏の文字がわからなくなるのが困る』というご意見も頂きました。必ず返信欄にご記入していただなくても構いません。何かメモ帳みたいなものでも、子どもの自学ノートの隙間にでも、ちょこちょこっと書いてくださっても構いません。これからも宜しくお願いします。

じっくり、じっくり

毎日、終わりの会で、「さあ、今日も宿題だすぞ！」って言うと、「エー！！」というクレームの声がします。ま、最近のいつものパターンですね。そんなことには負けないで、例えば下のような問題を、1問出すんです。

100円のかごに80円のサボテンと60円のメロンを、あわせて15個つめて、1200円にしようと思
います。サボテンとメロンを、それぞれ何個つめればいいでしょう。

この宿題を始める前に、A組の子ども達には、目で考える力が大切なことを話しました。

「人は考えるときに、目で考えているんだよ。それは、見ることで多くの情報を瞬時に処理できるからです。(黒板に大きく”視考力”って書きました。)実は、これこそが、暗記よりも脳を効果的に使い、さらに、深く考える学力を身に付けさせるには、欠かせない力なのです。そしてね、この力は、算数の力を高めるだけでなく、全ての教科、いや、人としての心の成長にとっても大切な力なんだよ。」

そんな説明をしました。本当にわたしは、そう思っています。よく、面倒くさがり屋や、勉強嫌いだなんていう子は、問題をじーっと腕を組んで見ているだけです。それに対して、勉強に興味のある子は、何かしら手を動かして、ノートに図や表を書き出しますね。頭で考える子どもってというのは、実は、とっても難しいことをしているわけで、図やイラスト、表に書き表していくと、見えないものが見えてくるんです。

この宿題の約束事は、とにかく文章を見て、図やイラストに書き表すこと。できるだけ数値や式を使わないことなんです。最近、ゲーム好きな子どもほど、頭の中ではばかり考えて、手を動かしてイメージして考えるという子は少なくなってきました。そういう子のノートを見ると、すぐに式を作ろうとして、関係ない数字を足したり、割ったりしてしまいます。イメージして考える力は、作文でも必要ですし、人間関係を作る上でも、とっても大切です。家庭学習の質を向上させるひとつの方法です。

ところで、家庭の中で、保護者が一番多く子どもに使う言葉はわかりますか？

『早く、早く』なんだそうです。自分を考えてみてもそうですね。「早く起きろ、宿題やったか？」「早くごはん食べろ、おくれっぞ」という感じです。

世の中全体が、スピードに乗り遅れまいと、何かにせかされているようです。だから、その反対の“スローライフ”とか、“スローフード”という言葉も生まれてきたのかもしれません。

“早く、早く”と言えばいほど、子どもには“考えない脳”が生まれてくるんです。スピードを求めれば求めるほど、脳は思考を停止してしまう。今、大切なのは、実はじっくり時間をかけて取り組むトレーニングだと思っています。答えが出るかわからないけど、とにかくじっくり自分で考えてみる。早くの逆だから、ゆっくりなほどいいんです。じっくり取り組むからこそ、脳は活発に動くのです。

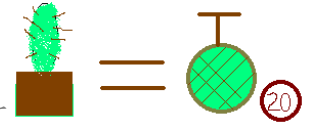
“早く”に慣れている子どもは、とにかく自分から動こうとはしませんね。指示を出すと、すぐにやっけてしまいますが、またそこで思考停止です。また、こちらから、何か指示を出さないといけません。まるで、巣の中でえさを待っている雛鳥みたいなものです。

そう考えると、よくある朝の風景、「さあ、起きろ」「ごはん食べたか」「忘れ物ないか」「バスにおくれるな」は、雛にえさを与えている親鳥と見えるかもしれません。これでは、いつになっても、巣立ってはいきませんね。

もっともっと、じっくり考える時間を作る必要を感じています。自分自身に反省です。

さあ、さっき出した宿題の続きです。

「先生さっぱりわかんねっけ」と、次の朝、ノートを提出しながら、ほとんどの生徒が言ってきます。黒板に「サボテンをメロンで描けないか？」と書いておきました。まだみんな、なんのこっちゃっ？てな感じです。



3時間目の学活の時間に、わたしの絵を紹介しました。サボテンは、メロンを使って
にあらわせるよって。とすると、15個全部、実はメロンを買ったことにできるよって」

「あ、そうか？ すごー」と声があがります。

「残ったお金は、20円何個になる？」「10個だよ」と生徒。だから、メロンと20円が合体して、サボテンに変
身するんだね。

じっくりのコツは、根気づよさと、やり続ける粘っこさです。

給食のとき、誰かがおかずをこぼしてしまいました。すると、まわりの女の子数名が何も言わずに立って、テ
ィッシュを出し合って、拭いてくれました。

「誰か手伝ってあげて」なんて野暮なこと言わなくてよかったです。

じっくり、じっくりは、実は見守る大人の方の心がまえなんです。

ご意見・ご感想をお願いします。

視考力の問題、ぜひ一緒にやってみてください。親子の会話が弾みます。

参考文献
『絶対学力』糸山泰造

[戻る](#)